

2010 年日本 APEC の基本的考え方

2010 年日本 APEC・SOM 議長

1. 2010 年 APEC のテーマとして掲げているのは「チェンジ・アンド・アクション」。すなわち、世界の政治・経済の構造が大きく変化している時代の中で、APEC がこれまでの実績を土台としつつ、21 世紀にふさわしい形で今後も重要な役割を果たし続けることができるよう、必要な「チェンジ」を構想し、それを具体的な「アクション」に移したいという発想です。具体的には、ボゴール目標に照らして貿易投資の自由化・円滑化の進捗を適切に評価し、アジア太平洋地域の発展を更なる高みに導く活動方針を「地域経済統合」、「新たな成長戦略」、「人間の安全保障」の 3 本柱及びそれを支える経済・技術協力活動で描いていきます。

2. 2010 年日本 APEC では以下の議題に焦点を当てます。(1)先進エコノミーによるボゴール目標の達成状況の検証や、アジア太平洋自由貿易圏(FTAAP)構想の実現に向けたあり得べき道筋の検討を始めとした地域経済統合の推進、(2)イノベーション及び知識集約型経済に支えられた、バランスのとれた成長、あまねく広がる成長、持続可能な成長、といった要素を含めた、アジア太平洋地域の新たな成長戦略の策定、(3)テロ対策、食料安全保障、感染症対策を始めとした人間の安全保障の強化、(4)これらを推進するために必要な経済・技術協力等の APEC の機能強化が 2010 年の主要な議論の柱になると考えています。これらが、APEC が今後目指すべき新しい姿を構想する際の重要な要素となると考えます。

3. 経済危機からの回復と地域の長期的な成長の確保を図るためには、これまでの APEC の中核的アジェンダである貿易・投資の自由化を更に進展させ、地域経済統合を推進していくことに加え、経済・金融危機の教訓を踏まえ、バランスのとれた成長を支え、これまで以上に一人一人が参加する機会を得て、成長の成果を享受する社会を実現し、環境を持続可能なものとするような長期的かつ包括的な成長戦略を描いていくことが重要です。これは技術革新と知識集約型経済を通じて、我々の成長潜在力の向上に資するものです。また、地域において安心してビジネスに

取り組める環境を作るためには、人間の安全保障が大切です。更に、これらの施策を推進するためには、それを実施するための具体的な能力構築事業を行う必要があります。このように、2010 年の主要な議論の柱は互いに密接に関連しています。

4. 2010 年は、先進エコノミーによるボゴール目標の達成年であるとともに、ボゴール目標達成後の APEC 地域経済統合の進むべき道を考える大きな節目の年です。また、世界経済・金融危機を含め大きな構造転換が進んでいる中、アジア太平洋地域の更なる一体化と経済危機後の安定した成長に向けたビジョンを示すことが求められており、2010 年はまさにこれらの課題に取り組む上で時宜を得ています。